

すまいるたん



汐入

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

世界初！紙の岩石の発明者 小林次郎さん（南千住6丁目）

「古紙を何とかリサイクルできないか」

夢の島のゴミ問題が騒がれていた頃、小林次郎さんは小学校を定年退職後、そんな思いがきっかけとなり試行錯誤の末に紙とセメントを混ぜて、「パルト

（パルプ+セメント）岩石」を発明し、10年の歳月後に特許を取りました。

造形パルト（盆栽鉢・植木鉢）の作り方は簡単です。

1 新聞紙や雑誌をちぎる。

2 ちぎった紙を水につけよくかき混ぜる

（ミキサーでどろどろにしてもよい）

3 どろどろになった物にセメントを3〜

5 割入れる

4 これに墨汁や灰ズミ1本入れる

5 粘土のようにして原型をつくり乾燥させる。

6 好きな形にアレンジしてパルト岩石完成。乾燥後もパルト材をつけたり削れます。

このパルト盆栽鉢・植木鉢は乾燥すると、軽くて割れにくく（コンクリートの1/2〜1/3位の重さ）なります。ま

た、燃やしても炎や有毒ガスも出ず、砕くと砂のようになり無公害です。紙には繊維の隙間がある為、プラスチック製や陶器製のものとは違い保水性・通気性・保湿性があります。表面は乾燥していても、紙が水分を含むので底に穴を開けず済むため虫が入ることもなく、植木がしおれずにしつかりと根を張ることができ

す。

紙とセメントだけでは、2、3年で風化し土に戻ってしまいます。盆栽鉢としては耐久性も要求されます。色々な材料で研究を重ねた結果、木炭粉や墨汁を混ぜるにより長持ちさせることができ育てる盆栽には適しています。その他に防音材としても屋根の雨漏りや壁の補習など建材として格安で幅広く使用できます。

また、セメントを混ぜた後、水を入れてざるなどでろ過された水は、アルカリ水となり、酸性土に撒くと土が中和され、植物に最適な土壌となります。このパルトの材料はセメント（1kg300円）も安く、墨汁100円と材料費もかかりません。初心者の方でも簡単にできます。子供の造形学習として日暮里の小学校や足立区で講習会を開いて好評を頂きました。

新聞やNHKにも取り上げられ、今年の5月にもモーニング娘の番組で紹介されています。

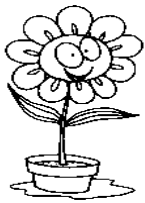
他にも、小林さんは水に浸した新聞紙を使ってちぎって混ぜて、茶碗などで固めた「パルトン」も発明しました。これは、乾くと固まり、天ぷら油を染み込ませて置けば数時間は燃える固形燃料になり、そのままでも炭火のように炎も出ず、ゆつくりと燃えます。

「環境を第一に考えて」

小林さんの熱い思いが、これらの発明の礎になります。「荒川ばらの会」で三ノ輪駅のパラの手入れや天王公園での植物の手入れもされている小林さんのご自宅や柏市のパルト展示場には、パルト岩石盆栽がたくさんあります。日光街道にあるみずほ銀行の前にも展示してあります。パルト岩石にパルトン、どちらも地球に優しく、安価にできます。資料は小林さんから頂けます。

ぜひ、皆さんも作ってみませんか？

教師そのままの朴訥なお人柄の小林さんも魅力的です。



★造形パルト研究所★

南千住6-55-9

電話3802-4046

小林次郎

★パルト盆栽展示場★

柏市光が丘4-13-24